

# 1. 編集委員会

福島 統（委員長・東京慈恵会医科大学教育センター）

医学教育白書 2010 年版に、編集委員会が運営委員会から独立した 2000 年 4 月（第 31 巻第 2 号）から 2009 年 8 月（第 40 巻第 4 号）までの経過を記録として残したので、本稿では 2009 年 10 月（第 40 巻第 5 号）から 2013 年 8 月（第 4 巻第 4 号）までについて記載する。

この間で最も大きな変化は、2011 年 10 月から電子投稿システムと従前の紙による投稿との併用を行い、2012 年 1 月から完全に電子投稿に移行したことである。電子投稿移行に伴い、投稿規定も 2012 年 1 月 1 日に改定された。投稿区分を、原著、教育実践研究、総説、短報、特集・招待論文、委員会報告と掲示板に分け、倫理委員会の承認を必要とすること、利益相反を開示することが求められることとなった。投稿論文の量的、質的研究レベル向上のために、連載として、「因子分析、その使い方間違っていないか？」（第 40 巻第 6 号から第 42 巻第 1 号）と、不定期連載「健康科学における質的研究」（第 41 巻第 1 号）、「面白い質的研究を生み出そう！」（第 43 巻第 1 号）を載せた。今年 8 月に急逝された堀原一先生を田中雄二郎編集委員がインタビューした特別企画「新しい医学教育の原点－筑波大学の草創期の思

い出」（第 43 巻第 2 号から第 43 巻第 4 号）は貴重な史料である。座談会として、「COI（利益相反）についての座談会」（第 42 巻第 5 号）、「医学教育の国際認証について聞く」（第 44 巻第 1 号）などその時の重要トピクスを載せた。特集としては、「学士入学制度調査を中心とした海外諸国における医学教育事情視察調査（第二報）」（第 40 巻第 5 号）、「臨床実習を考える」（第 43 巻第 2 号・3 号）、「医学教育と公衆衛生学」（第 43 巻第 3 号）、「医学教育を支える学習理論」（第 43 巻第 4 号）、「医学教育の国際認証について－英国卒前医学教育改革の動向」（第 44 巻第 2 号）を載せた。第 43 巻第 6 号に特集「イラスト・コラム」があり、この特集号を最後に、第 11 巻第 1 号から続いたナギ・カツオ先生のイラストが終了した。表紙を飾るナギ・カツオ先生のイラストの代わりに、第 44 巻からは機関会員の写真を表紙とすることにした。第 44 巻第 1 号からは、慶應義塾大学医学部、武蔵野赤十字病院、筑波大学医学群、岐阜大学医学部と続いている。

副委員長：椎橋実智男、委員：小林志津子、高橋都、武田裕子、錦織宏、山岡章浩、西城卓也

# 2. 広報・情報基盤開発委員会

椎橋 実智男（委員長・埼玉医科大学情報技術支援推進センター）

コンピュータに代表される情報機器、それらをつないで活用するネットワーク技術、すなわち ICT（information and communication technology：情報通信技術）の進歩は目覚ましい。ハードウエ

アの面では、記憶媒体の容量やネットワークの通信速度は毎年 2 倍以上になり続けているとも言われている。ソフトウェアの面では、クラウドコンピューティング、ビッグデータ、MOOC（massive